

蔵王山 火山防災マップ

宮城版



蔵王山は東北地方を代表する活火山で、仙台管区気象台において火山活動を24時間体制で監視しています。この蔵王山火山防災マップは、住民の方々や観光などで滞在される方々などに火山災害の危険性や避難の必要性などを理解していただくために作成したものです。マップでは、万一蔵王山が噴火した場合に予想される火山現象の種類や噴火の規模をもとに、災害の影響が想定される区域を示すとともに、避難場所や避難時の心得などを掲載しております。蔵王山は、観光や登山などで多くの方々にご覧いただけますが、活火山としての姿もあることを知っていただき、万一の場合に慌てず落ち着いた行動をとっていただきますようお願いいたします。

2017年1月

発行：蔵王山火山防災協議会

火山情報の種類

蔵王山の活動に変化があった場合は、仙台管区気象台から以下の警報・情報が発表されます。

噴火速報

- 噴火の発生を迅速にお知らせします。

噴火警報・噴火予報

- 噴火警報(居住地域)：警戒が必要な範囲が居住地域まで及び場合に発表し、特別警報に位置づけられています。
- 噴火警報(火口周辺)：警戒が必要な範囲が火口周辺に限られる場合に発表します。
- 噴火予報：噴火警報を解除する場合等に発表します。

火山の状況に関する解説情報

- 火山活動が活発な場合などに、活動状況や注意が必要な事項をお知らせします。

降灰予報

- 噴火に伴う火山灰の影響範囲および降灰の量の予測をお知らせします。

- 詳しくは気象庁ホームページ(火山)をご覧ください。
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/bunyavolcano.html>

蔵王山に異常が見られた場合には役場または気象台へ連絡してください。
仙台管区気象台地域火山監視・警報センター Tel: 022-297-8164
山形地方気象台 Tel: 023-622-2262

困ったとき・火山情報が欲しいときには

仙南地域広域行政事務組合

消防本部
TEL: 0224-84-2111
山形市消防本部
TEL: 023-642-5050
山形市緑町4丁目15番7号
TEL: 023-673-1191

山形市消防本部

山形市消防本部
TEL: 023-642-5050
山形市緑町4丁目15番7号
TEL: 023-673-1191

山形市消防本部

山形市消防本部
TEL: 023-673-1191

川崎町(総務課)
TEL: 0224-84-2111
蔵王町(総務課)
TEL: 0224-33-2211

白石市(危機対策室)
TEL: 0224-22-1452
七ヶ宿町(総務課)
TEL: 0224-37-2111

山形市(危機対策室)
TEL: 0224-22-1452
山形市(危機対策室)
TEL: 0224-37-2111

山形市(危機対策室)
TEL: 0224-22-1452
山形市(危機対策室)
TEL: 0224-37-2111

宮城県 危機対策課
TEL: 022-641-1212
山形市(防災対策課)
TEL: 023-641-1212

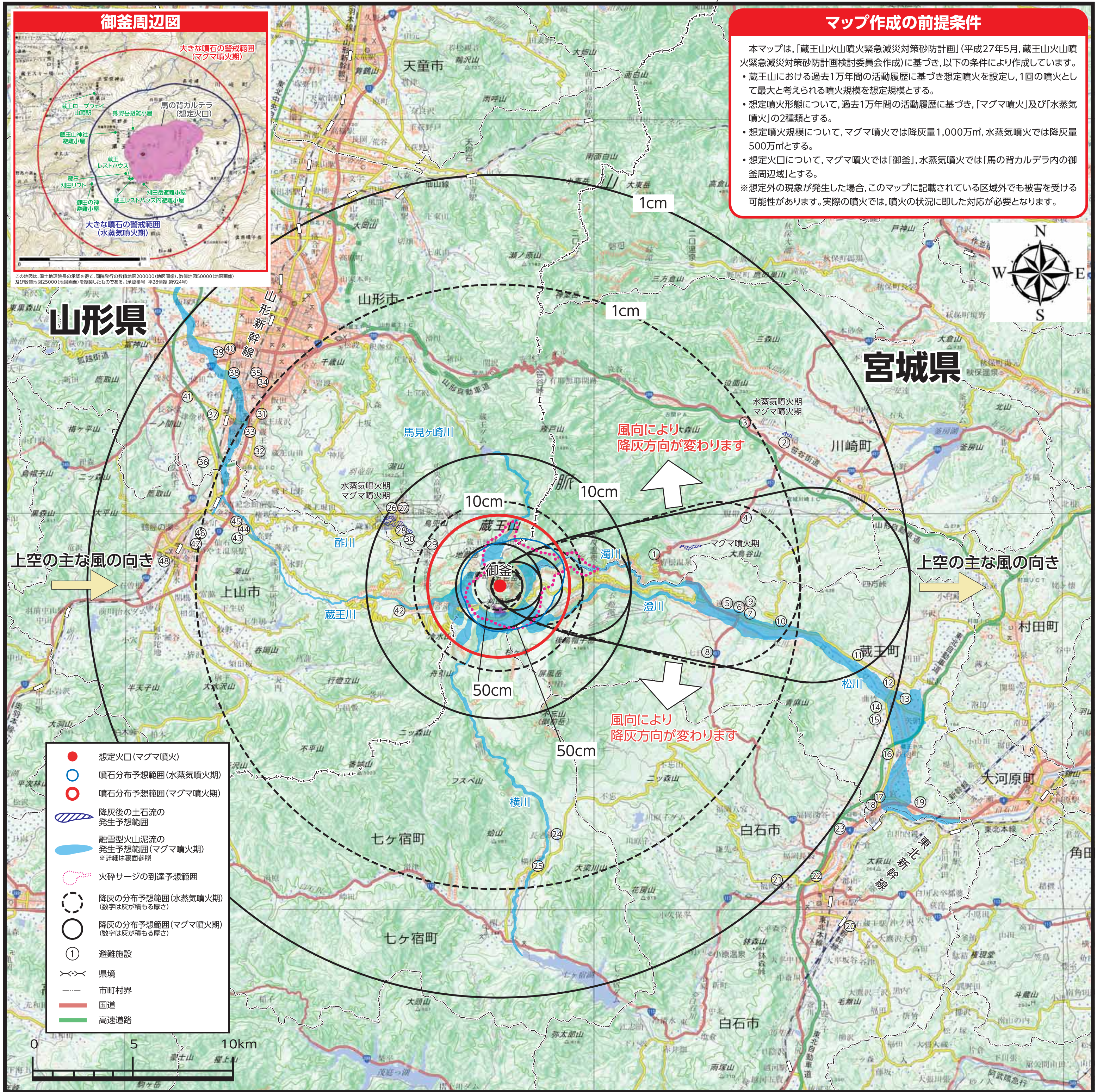
山形市(防災対策課)
TEL: 023-641-1212
山形市(防災対策課)
TEL: 023-641-1212

山形市(防災対策課)
TEL: 023-641-1212
山形市(防災対策課)
TEL: 023-641-1212

山形市(防災対策課)
TEL: 023-641-1212
山形市(防災対策課)
TEL: 023-641-1212

発行：蔵王山火山防災協議会
制作：株式会社ビー・プロ
発行年：2017年1月

蔵王山ハザードマップ



避難場所一覧

以下の避難施設は、市や町の「指定避難場所」のうち、火山災害予想区域の外にある施設を示したものです。実際の噴火により避難するときには、市役所・町役場から出される指示に従い行動して下さい。

川崎町 <ul style="list-style-type: none">川崎町地域活性化施設 田代町立前川小学校有明分校川崎町大字新字下山3-7川崎町公民館野上分館川崎町公民館古岡分館川崎町公民館高岡分館川崎町公民館高岡分館川崎町公民館高岡分館	遠刈田地区公民館 <ul style="list-style-type: none">遠刈田地区公民館遠刈田小学校遠刈田中学校遠刈田小学校遠刈田小学校遠刈田小学校	七ヶ宿町 <ul style="list-style-type: none">七ヶ宿町公民館 長老分館横川集落センター七ヶ宿町公民館七ヶ宿町公民館七ヶ宿町公民館七ヶ宿町公民館	山形市 <ul style="list-style-type: none">蔵王第三小学校・第二中学校蔵王体育館蔵王第一中学校蔵王第一中学校蔵王第一中学校蔵王第一中学校	白石市 <ul style="list-style-type: none">蔵王第一中学校蔵王第一中学校蔵王第一中学校蔵王第一中学校蔵王第一中学校蔵王第一中学校	蔵王町 <ul style="list-style-type: none">蔵王町公民館蔵王町公民館蔵王町公民館蔵王町公民館蔵王町公民館蔵王町公民館
---	---	---	--	--	--

蔵王山ハザードマップの想定現象

- 想定現象
噴火により、火口から噴石や火山灰が噴出します。爆発的な噴火の場合は火砕流(火砕サージ)の発生も考えられます。噴石や火山灰は山の斜面に降り積もりますが、雨が降ったときにこれらの噴石や火山灰が流れ出し、土砂や岩石を巻き込みながら川を流れ下ります(土石流)。積雪期に噴火が起こると、高温の噴出物が雪を一気に溶かし、土石流と同じように泥流が発生することがあります(融雪型火山泥流)。
- その他の現象
ハザードマップに示していないその他の現象として、「溶岩流」「御釜の湖壁が崩壊することにより発生する泥流」「岩屑なだれ」「火山ガス」などが考えられます。「溶岩流」は、マグマが火口から流れ出る現象です。約3.5万年前以降の最新活動期にも、規模は大きくありませんが発生していたことが明らかになってきました。「岩屑なだれ」は、御釜の湖壁が崩壊することによる泥流。「岩屑なだれ」は、噴火や地震が引き金となり、山体の一部が崩壊することにより発生する現象です。これらの現象は、他の火山現象に比べ、起こる確率は低いと考えられますが、蔵王山でも過去に何回も発生し、最新のものは約1万年前以内に発生した可能性ががあります。「火山ガス」は、マグマに溶けている水蒸気や二酸化炭素、二酸化硫黄、硫化水素などの様々な成分が気体となって放出されたものです。蔵王山では、山沢噴気地熱地帯において1940年に火山ガスを含む噴気が継続して確認されています。また、振り沢の新聞温泉跡付近では1966年に、横城岩付近の硫黄変質地帯では1939年及び1966年に、蔵川上流の硫黄変質地帯では1966年に火山ガスの噴出が記録されています。

有史以降の蔵王山の火山活動

発祥年	活動	噴火の概要等
1230年	噴火、降下火砕物	11月、東側山麓の広い範囲に火山灰が降る。
14世紀半ば	噴煙活動	阿武隈川河口付近からも噴煙が望めた。
1620~25年	噴火、降下火砕物	主な活動は23年5月から24年11月まで、近畿に火山灰、火山礫を降らす。田畑に被害。
1641年	噴火	
1668~70年	噴火、降下火砕物	70年9月に降灰。
1694~97年	噴火、降下火砕物、火山泥流	94年5月の噴火で山頂の社が焼失、宮城県白石市まで降灰、火山泥流が東側の河川に流れ下る。8月宮城県、山形県側に火山泥流が流れる。川の魚が死ぬ。
1794~96年	噴火、降下火砕物	94年、96年に噴火。94年9月山形県花子町まで降灰、田畑に被害。
1804.06年	噴煙活動	御釜から噴煙が上がる。
1809年	噴火、火山泥流	9月、12月東側に火山泥流発生。川の魚が死ぬ。
1813.21~22年	噴火	
1831~33年	噴火、降下火砕物、火山泥流	31年11月、32年1月火山泥流発生。
1867年10月	噴火、火山泥流	火山泥流発生。5人死亡。
1894~97年	噴火、降下火砕物、火山泥流	94年2、3月頃から噴気。7月に噴火。95年2、3、6月に噴火し降灰、火山泥流発生。9月に最大級の噴火。山頂付近に噴石多数。降灰は太平洋岸に到達。火山泥流により濁川が9m増水。
1918~28年	火山ガス噴出	18年7月より御釜白濁。湖面に硫黄浮遊
1939~43年	火山ガス噴出	39年7月より御釜白濁。湖面に硫黄浮遊。11月、40年2月に湖底水温100℃以上。4月御釜北東約1.5kmに新噴気孔発生
1949年	噴気活動	丸山沢にて活発化
1966年	噴気活動	丸山沢、振り沢にて活発化
2012年~	火山性地震・微動	12年以降深部低周波地震。13年以降浅部火山性地震及び微動が活発化

蔵王山火山防災協議会センターウェブサイト(https://www.gsj.jp/HomePage/2.html)掲載の「蔵王山火山防災マップ」を使用し、蔵王山火山防災協議会が作成・加工したものである。

蔵王山の噴火警戒レベル

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の段階に区分したものです。
- 警戒レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者などの安全確保行動が一目で分かるキーワードを設定しています(レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「火口周辺規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」)。
- 蔵王山の噴火警戒レベルは、噴火警報等で伝えられます。

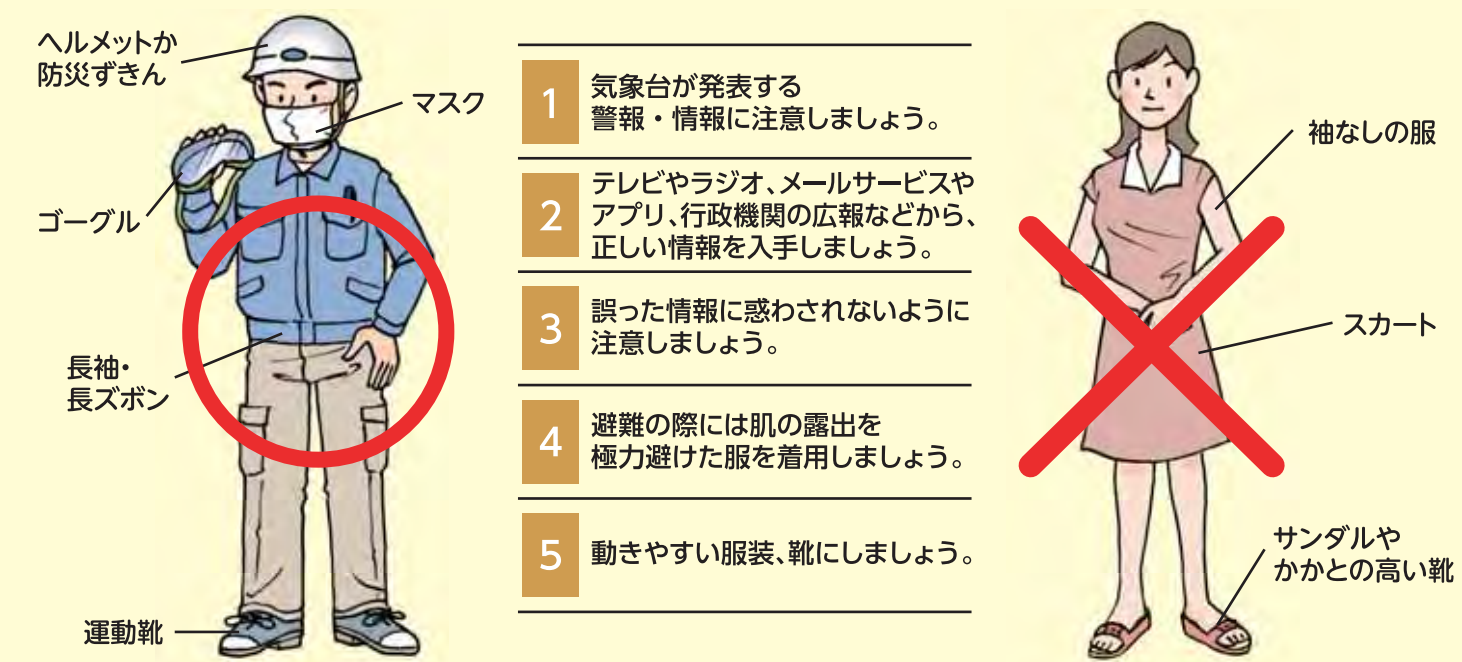
種別	名称	対象範囲	レベル(キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域)	居住地域及びそのより火口側	5(避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●融雪型火山泥流または御釜由来の泥流が発生、あるいは切迫している。 ●噴火の規模や位置が特定できない噴火が発生し、融雪型火山泥流または御釜由来の泥流の可能性がある。
			4(避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域への避難準備等が必要。要配慮者及び特定地域の避難等が必要。	●融雪型火山泥流または御釜由来の泥流に伴う噴火が予想される。
警報	噴火警報(火口周辺)	火口から居住地域まで	3(火口周辺規制)	居住地域の近くまで重大な被害を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺に侵入した場合には生命に危険が及ぶ噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	●火口周辺の広い範囲に影響を及ぼす噴火が予想される。 ●融雪型火山泥流及び御釜由来の泥流が予想されない噴火の発生。
			2(火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立ち入り規制等。(状況に応じて特定地域の避難準備が必要)	●火口周辺に影響を及ぼす噴火の発生が予想される。
予報	噴火予報	火口内等	1(活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内や火山灰の噴出等が予想される(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立ち入り規制等。	●火口内での少量の噴気や火山ガス等が発生。

●融雪型火山泥流とは、噴火に伴い御釜の水が溢れ出ることや火口壁が崩壊することによって発生する現象。火口地下から直接噴出する水が熱泥流となって流下する現象もある。
●火口は、御釜を含む馬の背カルデラ内のいずれかに想定される。
●特定地域とは、濁川上流地域の民間施設を指す。噴石、火砕流、融雪型火山泥流、御釜由来の泥流で避難道路などが通行不能となおそれられる地域では、早期避難等が必要。

本誌を制作していただいた製版業者三善三善からご提供いただいた地図は、国土院院長の承認を得ています。

避難時の心得

避難するときには、市役所・町役場から発表される避難勧告や指示に従って落ち着いて行動しましょう。



- 1 気象台が発表する警報・情報に注意しましょう。
- 2 テレビやラジオ、メールサービスやアプリ、行政機関の広報などから、正しい情報入手しましょう。
- 3 誤った情報に惑わされないように注意しましょう。
- 4 避難の際には肌の露出を極力避けた服を着用しましょう。
- 5 動きやすい服装、靴にしましょう。

非常持出品(例) 家族構成などに合わせて準備しましょう。

必要な物

- リュックサック
- 衣料品
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- 応急医薬品
- 食料品・水
- 貴重品(現金・通帳・印鑑など)
- 健康保険証

あとと便利な物

- 携帯電話
- マッチ・ライター
- ローソク
- 十徳ナイフ・缶切り
- プラスチック製のコップ
- 大小のビニール袋
- マスク
- ゴーグル
- ロープ
- タオル
- ホイッスル

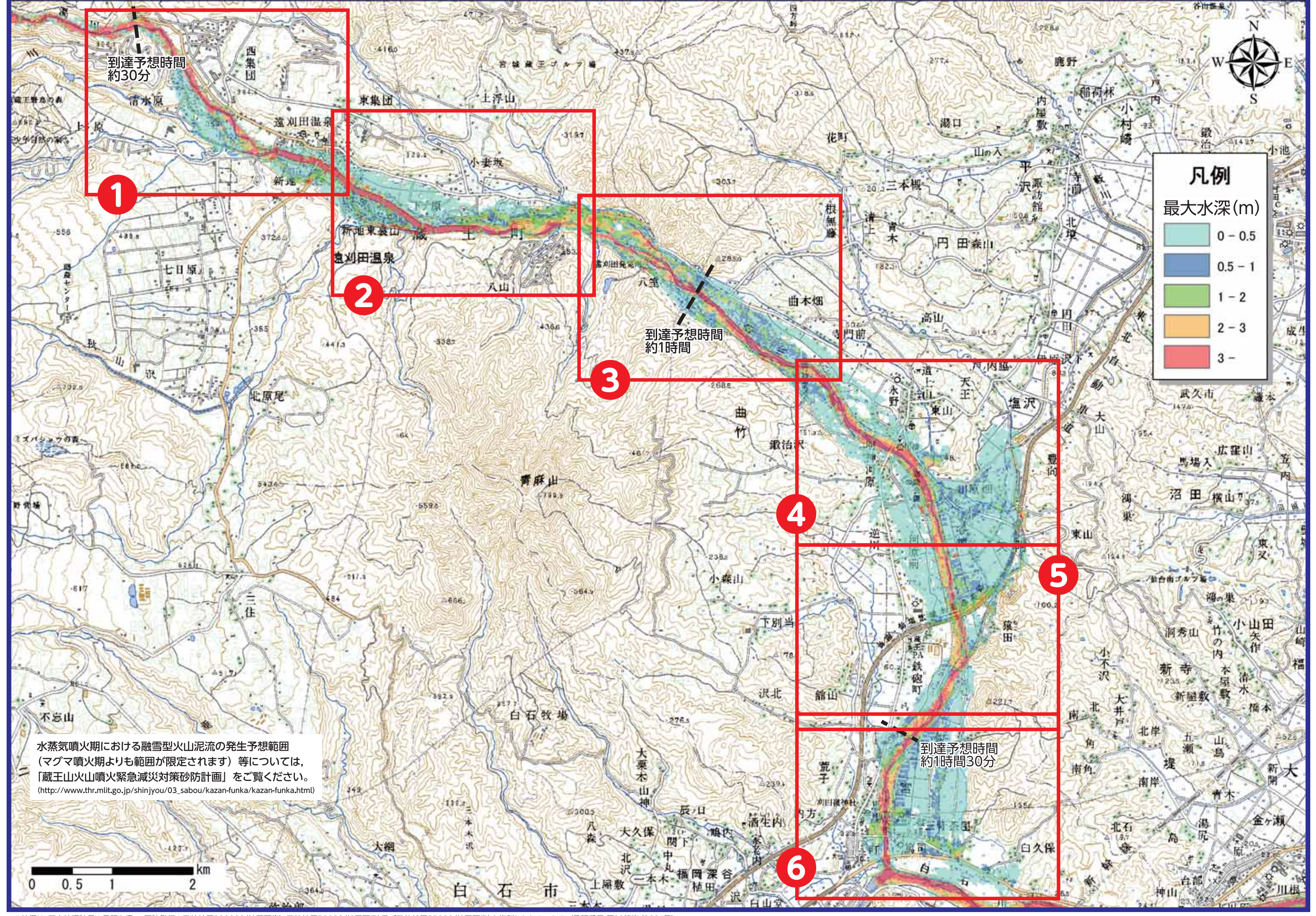
赤ちゃんがいる場合

- ほ乳瓶
- 紙おむつ
- ミルク

お年寄りがいる場合

- 看護・介護用品
- 常備薬
- 紙おむつ

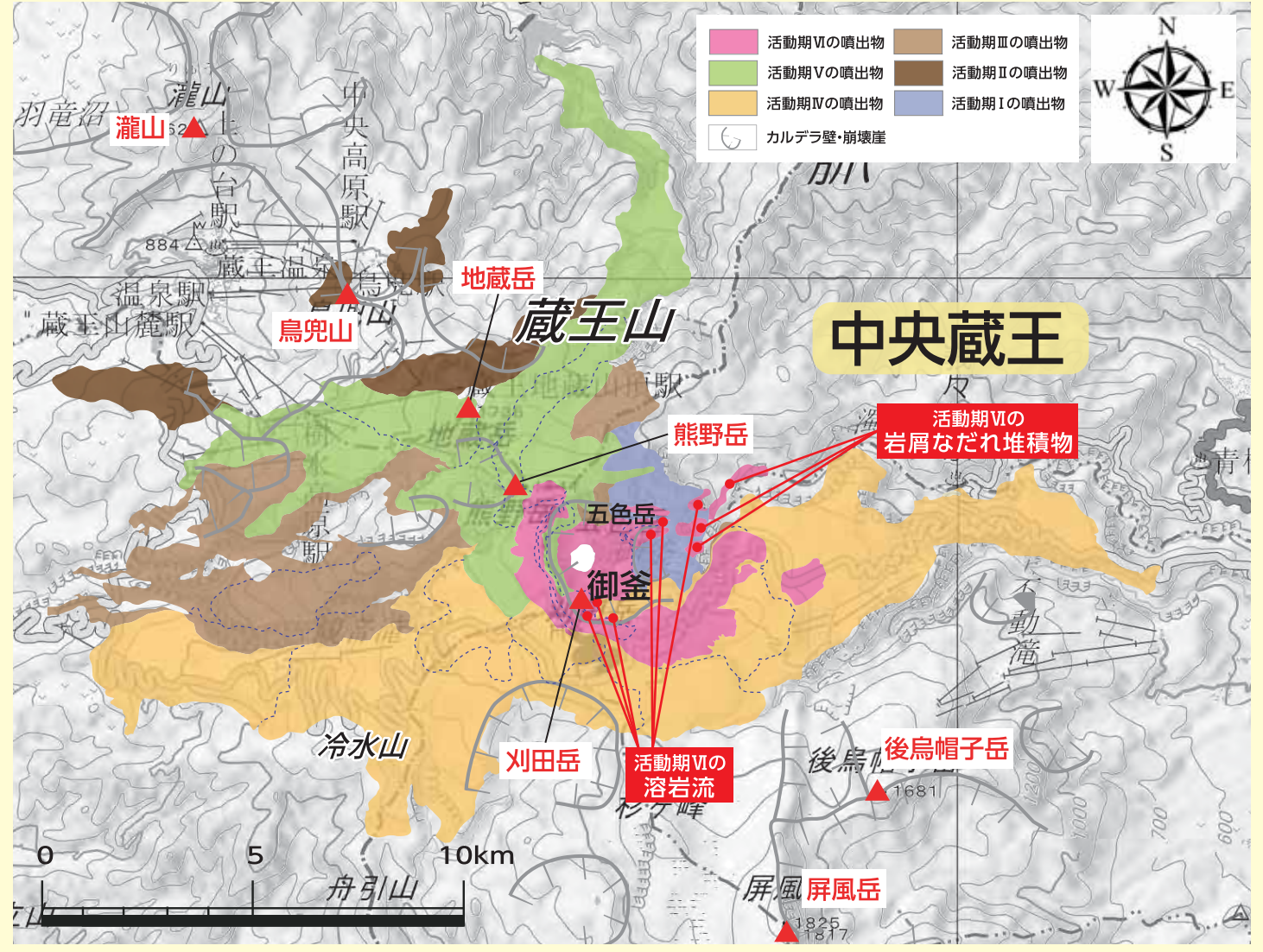
融雪型火山泥流マップ(全体図) マグマ噴火期



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数字地図200000(地図画像)、数字地図50000(地図画像)及び数字地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平28情発,第924号)

蔵王山の地質と活動

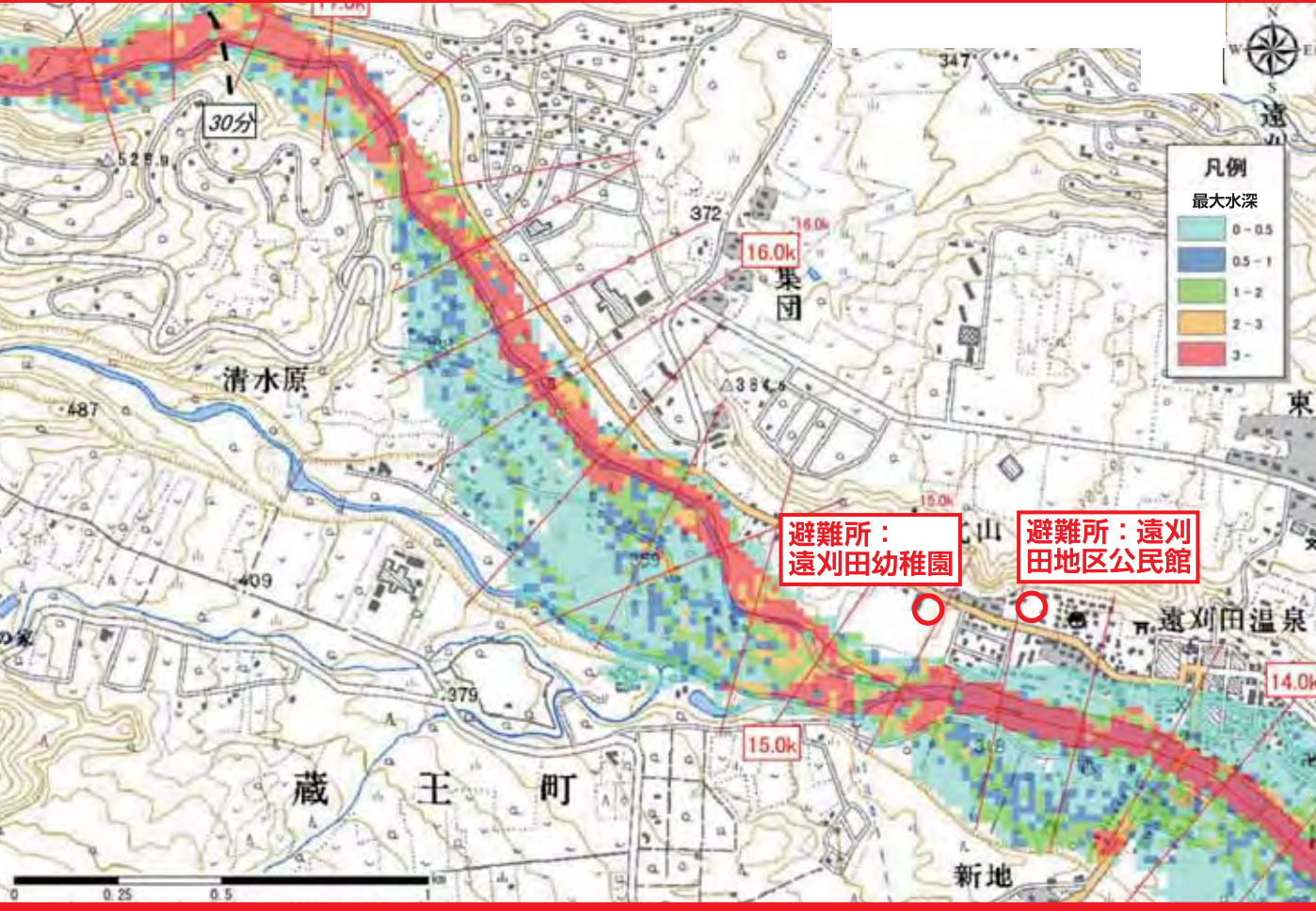
蔵王山は、御釜を中心とする活火山です。約100万年間の噴火の歴史があり、その活動は下表のようにI期～VI期の6つの時期に分けられますが、活動の様子は最初(I期)と最後(VI期)、及びその中間(II～V期)で大きく異なります。I期は水中での活動でした。II～VI期には活動期ごとに噴火口が大きく移動し、様々な場所に成層火山体が形成されました。これらの火山体は概ね南北に並び、現在の蔵王山の骨格を形成しています。VI期は爆発的噴火が卓越しています。火山口が現在の御釜に移動したのは約800年前です。その後も約100年に一度は、時に数十年間に及ぶ活動的な時期を経てきました。御釜からの直近の噴火は1895年に起こっています。



活動期	マグマの種類	活動の様子
I (約100万年前)	玄武岩質マグマ	水中火山活動。この活動の前に大きな湖が形成された。おそらく巨大噴火により大きな窪地ができ、水が溜まってできたものと思われる。
II (約50万年前)		最北部に成層火山体が形成される。
III (約35～25万年前)		中央部に成層火山体が形成される。
IV (約25～20万年前)	安山岩質マグマ	南部に成層火山体が形成される。
V (約13～4万年前)		北部に成層火山体が形成される。比較的爆発的な活動により溶岩流出に加え火山灰や火山弾等が放出され、火砕流も発生。
VI (約3.5万年前～現在)	玄武岩質安山岩 安山岩質マグマ	爆発的な水蒸気噴火やマグマ水蒸気噴火により火山灰や火山弾等が放出され、時には火砕サージも発生。

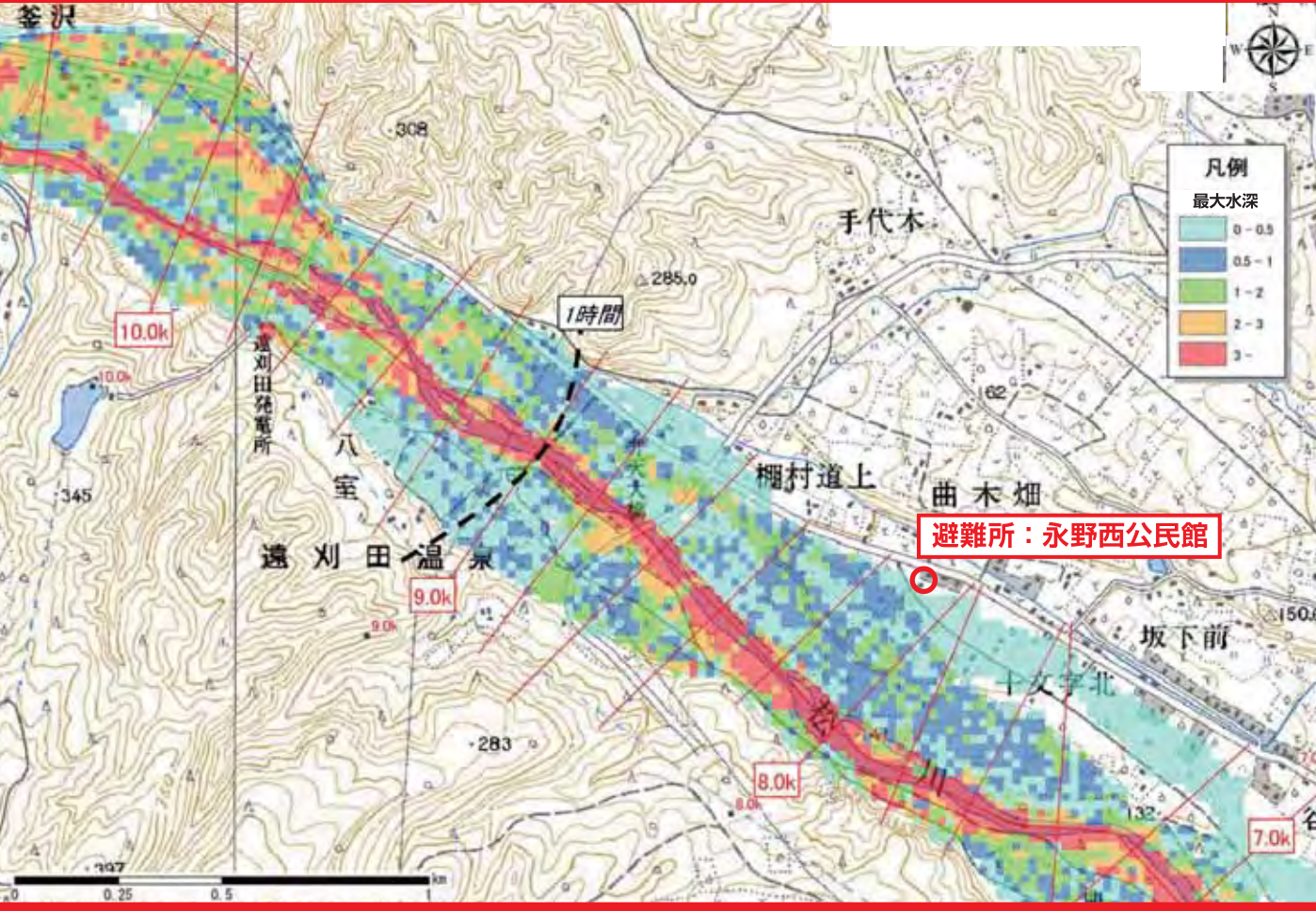
産経地理院調査センターウェブサイト(https://www.gsj.jp/HomePage.jPhtml)掲載の「蔵王山火山地質図」を使用し、蔵王山火山前史編年表作成・加工したものである。

融雪型火山泥流マップ(詳細図)①



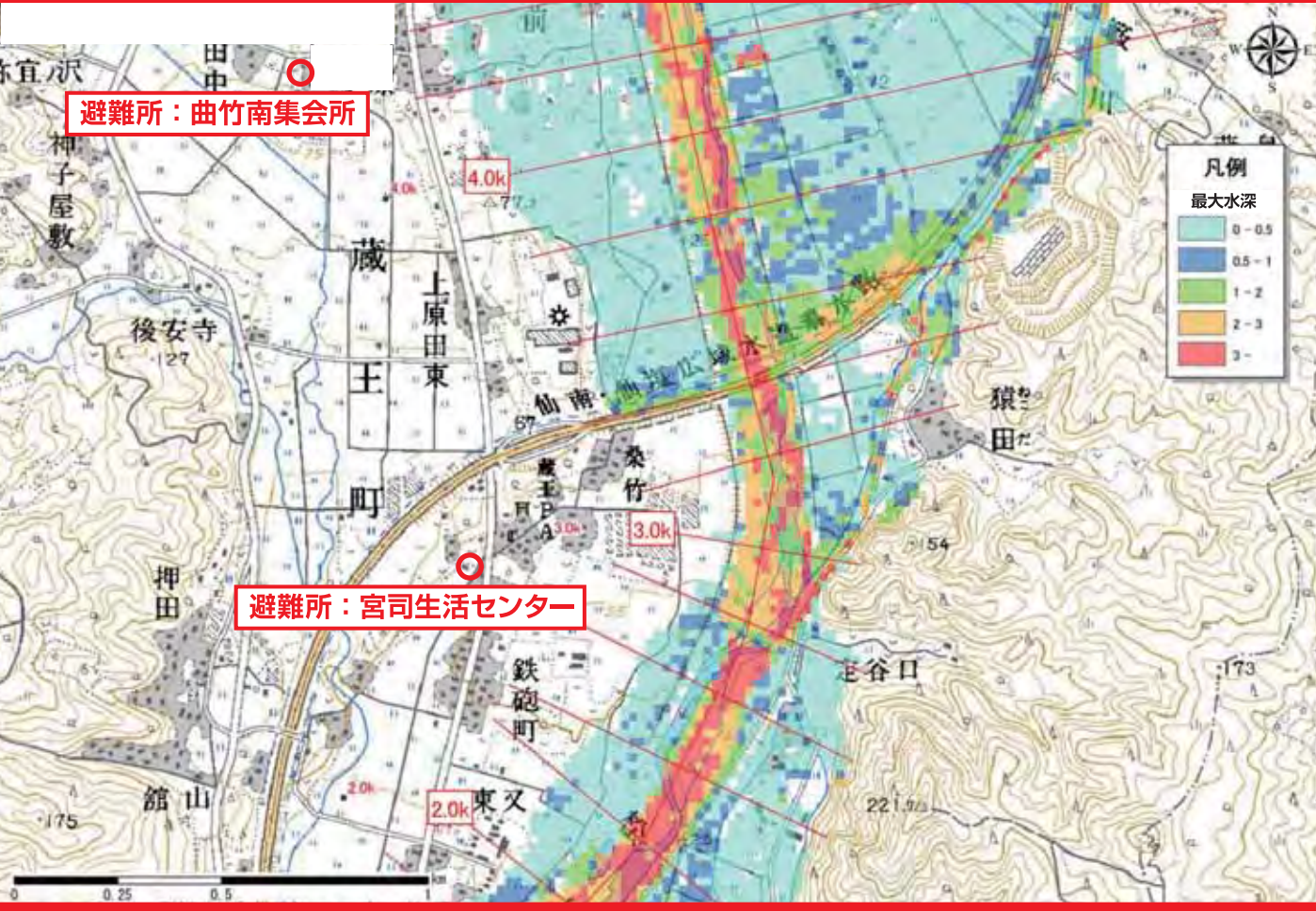
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平28情発,第924号)

融雪型火山泥流マップ(詳細図)③



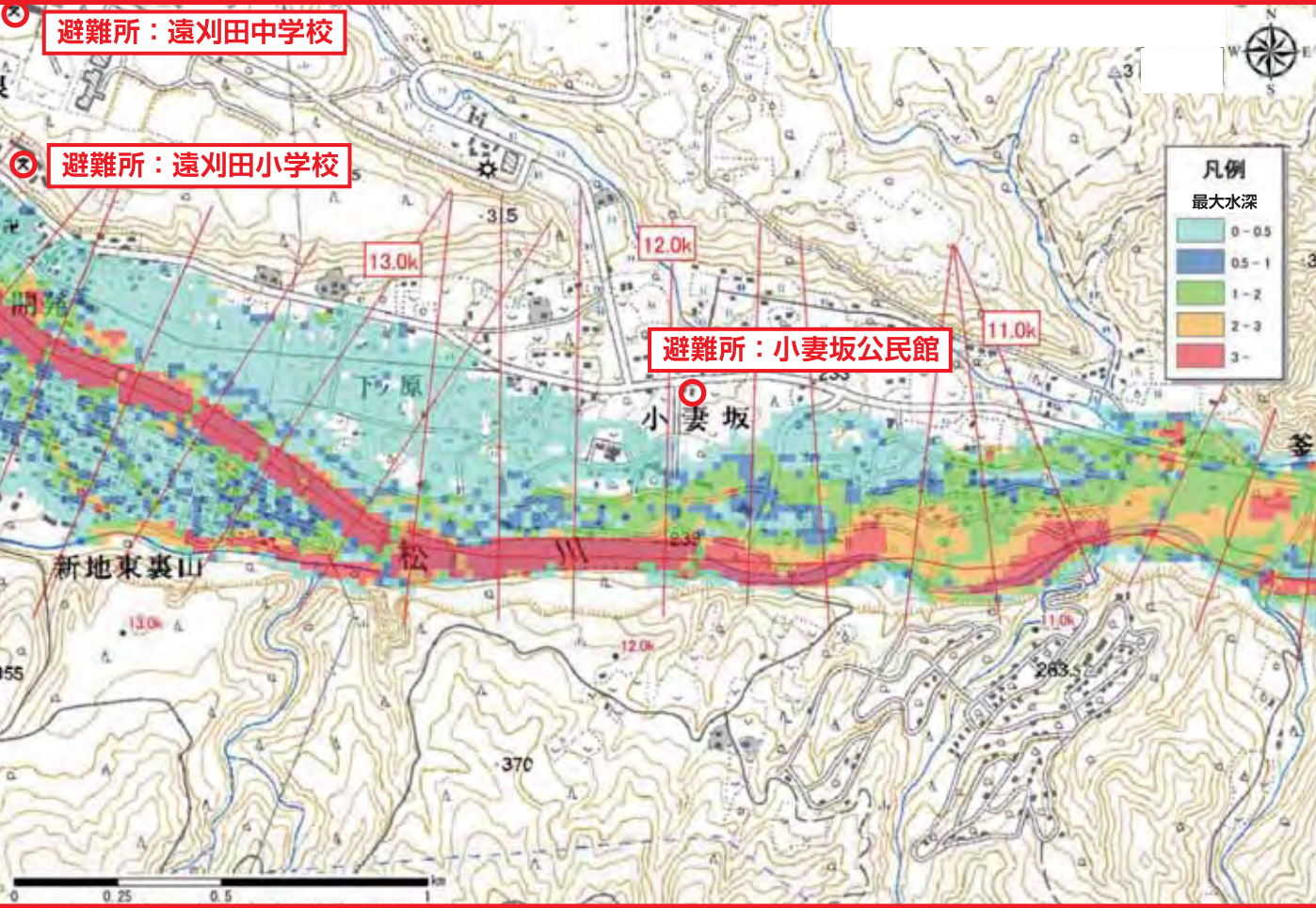
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平28情発,第924号)

融雪型火山泥流マップ(詳細図)⑤



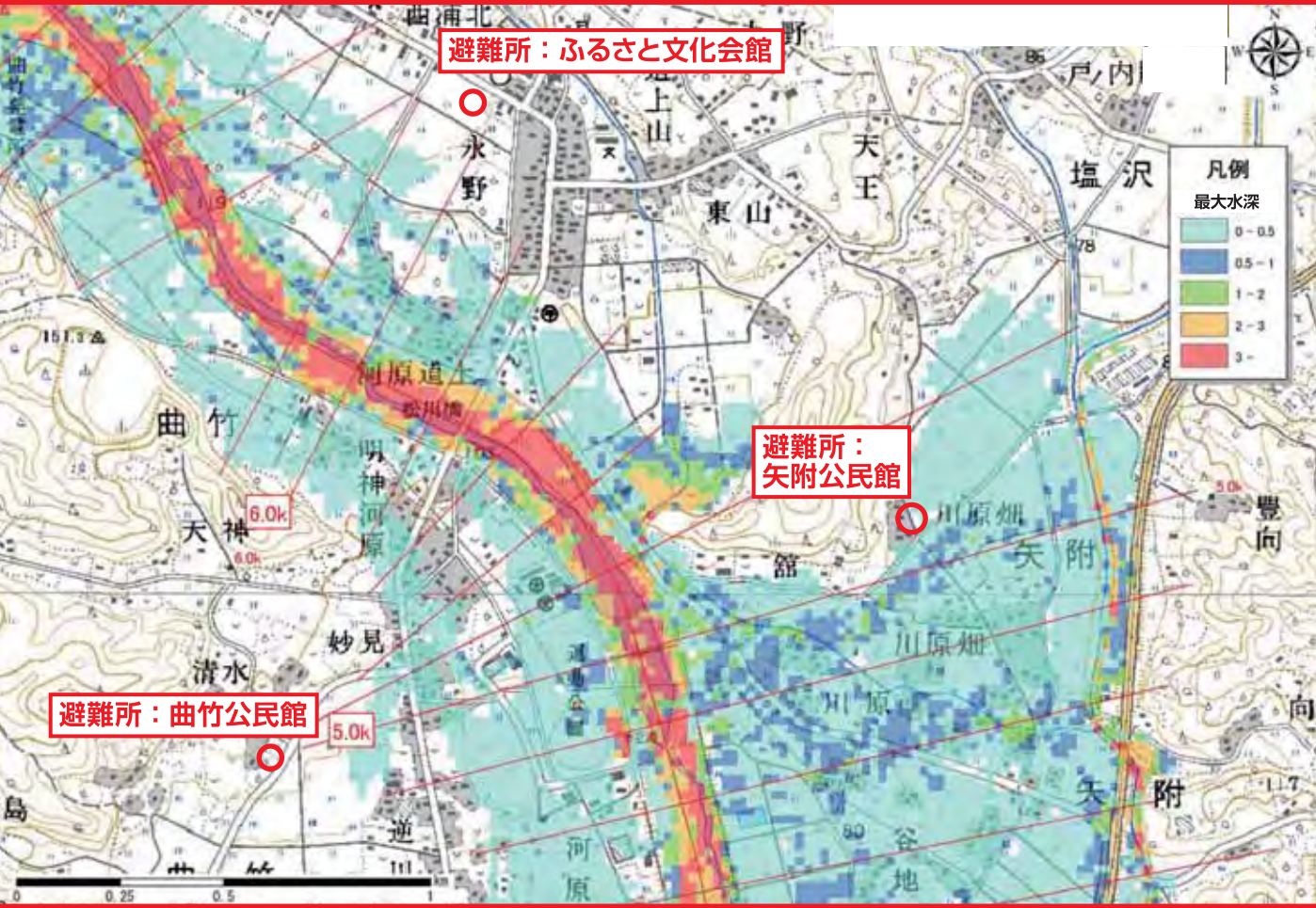
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平28情発,第924号)

融雪型火山泥流マップ(詳細図)②



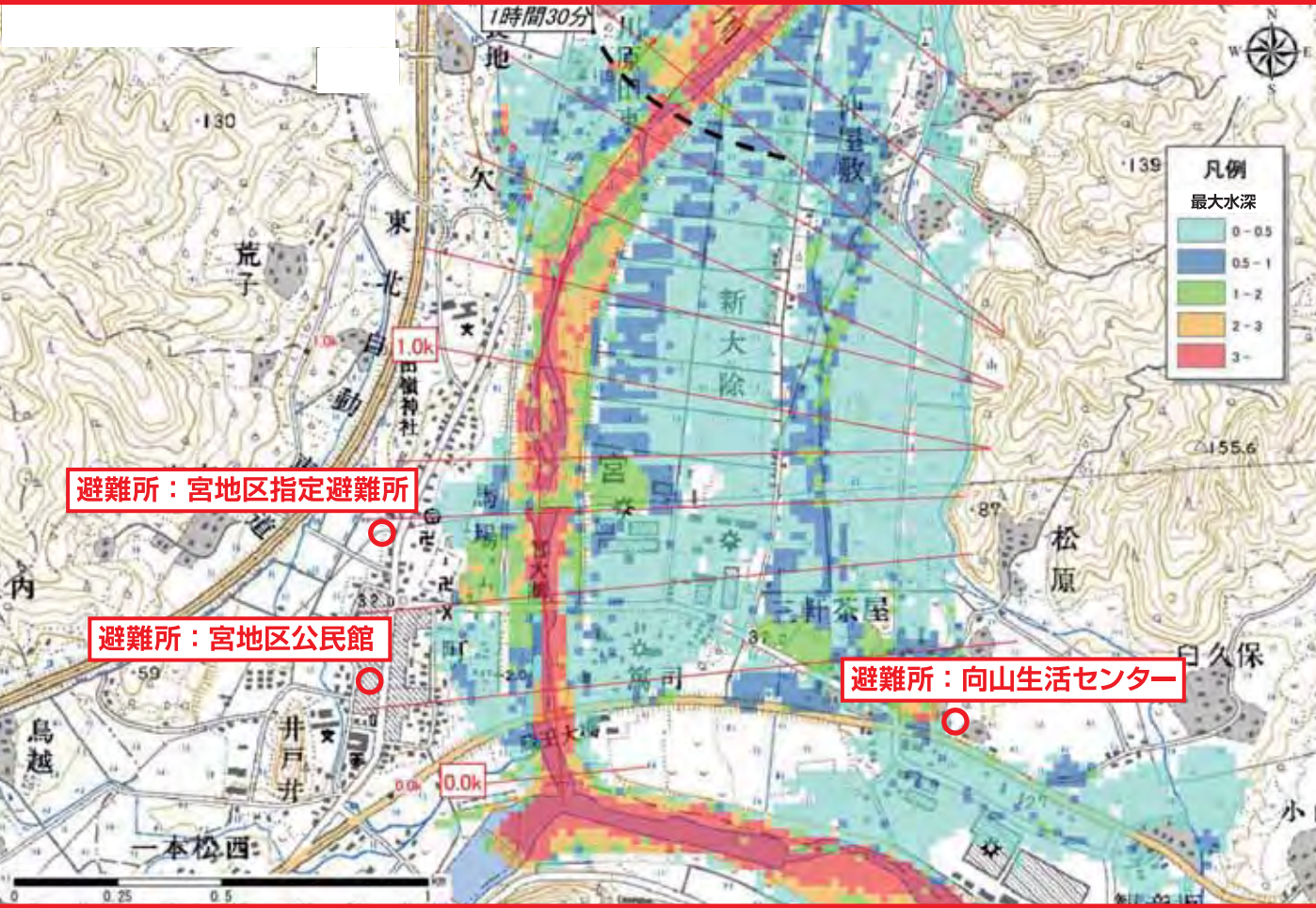
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平28情発,第924号)

融雪型火山泥流マップ(詳細図)④



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平28情発,第924号)

融雪型火山泥流マップ(詳細図)⑥



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平28情発,第924号)

火山災害を引き起こす現象の説明

噴火の種類
水蒸気噴火：マグマで熱せられた地下水が急激に膨張し、水蒸気となって爆発する噴火をいいます。マグマ水蒸気噴火：地下水がマグマと直接接触して水蒸気爆発を起こし、マグマとともに噴出する噴火をいいます。
マグマ噴火：マグマそのものが地表に噴出する噴火をいいます。
[写真:2000年有珠山の水蒸気噴火] (写真提供1)

大きな噴石(ふんせき)
噴火により、火山近傍には無数の大小の噴石が吹き飛ばされ、登山者や建物等に被害を及ぼします。直径約50cm以上の大きな噴石等は、風の影響を受けずに火山口から弾道を描いて短時間で落下し、建物の屋根を打ち破るほどの破壊力を持っています。
[写真:2000年有珠山噴火による被害] (写真提供2)

小さな噴石-火山灰(かざんばい)
噴火により噴出した小さな噴石のうち、小さな噴石は火山口から10km以上遠方まで風に流されて降する場合もあり、屋内への逃避が必要になることもあります。火山灰は、時には数kmから数百km以上風に運ばれて広域に降下堆積し、農作物の被害、交通麻痺、家屋倒壊、航空機のエンジントラブル等広く社会生活に深刻な影響を及ぼします。
[写真:2000年三宅島噴火による噴煙と降灰] (写真提供3)

火砕流(かさいりゅう)-火砕サージ
高温のガスや火山灰、岩塊などが一体となって急速に山体を流下する現象を火砕流といえます。流下速度は時速数十kmから数百km、温度は数百℃に達することが多く、通過域を焼失・埋没させます。火砕サージは火砕流よりもガス成分が多い稀薄な流れですが、非常に高速で、直進して尾根を乗り越えることもあります。
[写真:1991年雲仙普賢岳の火砕流] (写真提供4)

融雪型火山泥流(ゆうせつがたかざんでいりゅう)
積雪期の火山において、噴火に伴う火砕流等の熱によって斜面の雪が融かされて大量の水が発生し、周辺の土砂や岩石を巻き込みながら高速で流下する現象です。流下速度は時速60kmを超えることもあり、谷筋や沢沿いをはるか遠方まで一気に流下し、広範囲の建物、道路、農耕地が破壊され埋没する等、大規模な災害を引き起こしやすい火山現象です。
[写真:1926年十勝岳噴火に伴った融雪型火山泥流] (写真提供5)

火山噴火に伴う堆積物による土石流(どせきりゅう)や泥流(でいりゅう)
火山噴火により噴出された岩石や火山灰が堆積しているところに雨が降ると土石流や泥流が発生しやすくなります。火山灰が積もったところでは、数ミリ程度の雨でも発生することがあります。これらの土石流や泥流は高速で斜面を流れ下り、下流に大きな被害をもたらし得ます。
[写真:1991年雲仙普賢岳で発生した土石流による被害] (写真提供6)

溶岩流(ようがんりゅう)
マグマが火山口から噴出して高温の液体のまま地表を流れるものです。通過域の建物、道路、農耕地、森林、集落を焼失・埋没させます。
[写真:1986年伊豆大島噴火に伴った溶岩流] (写真提供7)

岩屑(がんせつ)なだれ
噴火や地震の強い揺れなどで山体の一部が一気に崩れ、大きな岩や土のかたまりが高速で流れ下る現象です。
[写真:1980年米道セントヘレンズ火山噴火に伴った岩屑なだれ] (写真提供8)